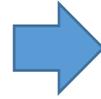


本計画の主旨：事後保全+改築型【60年】から予防保全+長寿命化型【100年】への転換

行動計画

- 大阪大学インフラ長寿命化計画のための基本的方針。
- 対象施設（建築・基幹設備）や計画期間などの計画の範囲、対象施設の現状と課題などを示す。



対象施設：
【建築】 大阪大学の全建物※1
【基幹設備】 14項目※2
 計画期間（計画作成期間）：
 平成28～30年度

対策費用(建築)の検討：
【従来型】 平均：89億円／年
【長寿命化型】 平均：65億円／年



長寿命化型の方がコストメリットがある結果となったが、経年等の状況も考慮し、**個別施設計画**を検討する。

個別施設計画 ... 30年間の建築物の改修・改築計画と基幹設備の更新計画

計画の考え方

保有面積



周期



改修方法



個別施設計画

- 現在の**施設保有面積を維持**
- 施設の経年等を考慮した**適切な周期**で対策を実施
- 施設の要求性能に応じた**適切な改修方法**



- 前提に基づいた**改修・改築・更新計画**
- 長寿命化を図ることにより、従来より**トータルコストを削減**

今後

- 文部科学省の検討会の結果や各部局による個別施設計画と整合性を取る等、**適宜見直しを行う**。
- 対策費用のあり方や平準化等**について検討を行う。

建築

- 経年が50年以内、新耐震、大規模※3な建物を長寿命化が可能な建物、その他を長寿命化が困難な建物として**施設のトリアージ**を行う。
- 長寿命化が可能な建物**には【長寿命化型（寿命100年）】のライフサイクルを採用し、使用用途によって改修方法（性能維持のみ、性能維持+機能向上）を分別する。
- 長寿命化が困難な建物**には【従来型（寿命60年）】のライフサイクルを採用し、改修（性能維持）・改築を行う。小規模な建物は集約化等を検討する。※4

30年間合計：約1,800億円 平均：約60億円／年

基幹設備

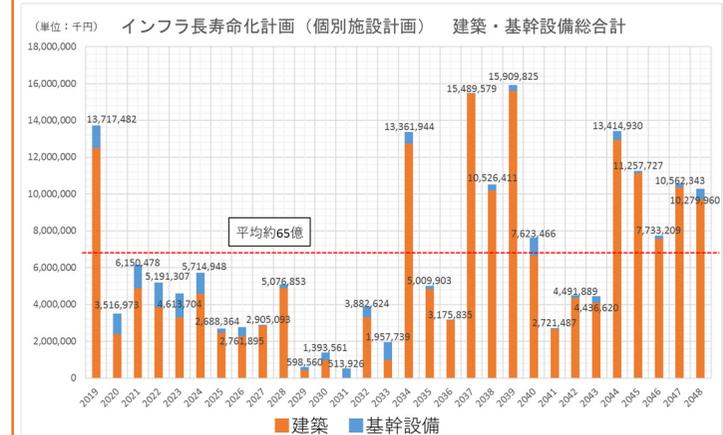
- 対象設備は、以下の14項目。

1. 高圧受変電設備	8. 屋外ガス管（都市ガス）
2. 特別高圧受変電設備	9. 屋外ガス管（ヘリウムガス）
3. 自家発電設備	10. 屋外排水管（雨水）
4. 中央監視制御設備	11. 屋外排水管（生活・実験）
5. 冷房熱源設備	12. 屋外電力線
6. 屋外給水管（市水）	13. 屋外電話線
7. 屋外給水管（井水）	14. 道路
- 設置年度の古いものから※5、**計画更新年数**※6に達したときに対策を実施する。

30年間合計：約150億円 平均：約5億円／年

全体

- 対策費用
30年間総額：約1,950億円
平均：約65億円／年
 （建築：約60億円、基幹設備：約5億円）



※1 箕面団地、医学部附属病院・登録有形文化財・重要文化財・別途計画がある建物などを除く
 ※2 個別施設計画の対象設備参照

※3 延べ面積：2,000㎡以上かつ階数：3階以上の建物
 ※4 用途上集約化が困難な建物については、集約化するか改築するか別途検討の後決定する

※5 道路のみ劣化度の高いものから対策を実施する
 ※6 20～30年（改訂建築物のライフサイクルコストによる）